

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32710
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26330406
 研究課題名(和文) 情報リテラシーと探究学習を融合した学校図書館教育カリキュラムの開発に関する研究

研究課題名(英文) Development of School Library Educational Program Integrating Information Literacy and Inquiry Learning

研究代表者
 河西 由美子(Kasai, Yumiko)
 鶴見大学・文学部・教授

研究者番号：10365869

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：先進的な環境を有する学校図書館で展開されている情報リテラシー教育と探究型の学習を、標準的な環境の公立学校で実践可能とする教育カリキュラムの開発のため、助成期間前半では、学校図書館所蔵メディアの多様性が確保されているモデル校を選定した。さらにモデル校における学校図書館活用の授業実践の分析調査を実施し、より短時間の構成単元で実施可能な学習活動の要素を抽出した。

最終年度は、研究の国際的な展開として、モデル校での実践調査の報告を、国際学校図書館員協会(IASL)の東京年次大会(2016)で発表し、さらに同内容の招待講演をローマ第三大学(イタリア共和国)で実施した。

研究成果の概要(英文)：On purpose of developing a new school library educational programme to implement in "ordinary schools", one model school was selected as subject. Then series of researches on lesson study in advanced school library media centre were done to derive the components of learning activities contributing smaller programmes for the other schools.

In the final year of this research, the interim report was presented in an international conference of IASL (International Association of School Librarianship) 2016 and the following presentation was invited by Universita Degli Studi Roma Tre in Roma, Italy.

研究分野：情報行動研究(図書館情報学・教育学)

キーワード：学校図書館 情報リテラシー 探究学習 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の学校図書館は、人員配置や教育政策との不整合の問題等から整備が遅れ、既存教科のみならず、情報教育との連携も進んでいない。このような背景が、欧米先進国においては実現されている学習情報メディアセンターとしての学校図書館およびその機能を十全に活用した教科横断的な情報リテラシー教育および探究型学習の実践を阻害する要因となっている。

(2) 学校図書館の図書整備については、文部科学省による図書整備費交付措置が取られているものの、図書以外のメディアの活用については未着手のままである。その結果、多様なメディア(資料)配置が実現されている私立学校の学校図書館と、標準的な公立学校の環境格差は、教育のデジタル化の中、むしろその開きは拡大傾向にある。

(3) 国際的な用語としての「情報リテラシー」は、日本での狭義の「ICTリテラシー」とは異なり、図書館を基盤とした、伝統的な印刷メディアから電子メディアまでを横断的に取り扱う包括的な能力概念として認識され、ユネスコが世界的な基準を定めつつある。こうした国際的な流れに対して、図書資料に偏重した日本の学校図書館は対応することが困難な状況に置かれているといえる。

(4) 国際的な学校図書館の動向においては、21世紀型の学力育成が叫ばれ、学校図書館をフィールドとした新しい探究型学習が北米の Kuhlthau 等により提唱されている。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、多様なメディアが配置されている先進的な学校図書館を、今日的な学習環境のあるべき姿(モデル)とみなし、より標準的な公立学校でも展開可能な情報リテラシー(情報活用能力)教育と探究型学習のカリキュラム、およびその効果的な指導方法と教材開発を目的としている。

(2) 得られた知見について国内および国際会議等で発表し、学术交流を行う。

3. 研究の方法

(1) 学校図書館所蔵メディアの多様性が確保されているモデル校を1校抽出し、当該の学校図書館で実践されている情報リテラシー教育および探究学習の実践を詳細に分析し、カリキュラム標準化のための学習要素を抽出し分析する。

(2) モデル校の実践分析から抽出された学習活動の要素を検討し、カリキュラム案と教材を開発する。

(3) 開発研究を踏まえて、標準的環境の学校

を対象に、モデルカリキュラムの試用実験を実施する。

4. 研究成果

(1) 東京・玉川学園(幼少中高一貫校)の学校図書館メディアセンターにおいては、情報リテラシー教育の要素が埋め込まれた新たな探究学習のアプローチ“guided inquiry”(導かれた探究)が、玉川学園9年生(中学3年生)通年必修科目「学びの技」において実践されていることが確認できた。

(2) 前述の“guided inquiry”(導かれた探究)モデルに存在する2つの情報収集プロセスに特化して、中学3年生1学級の学校図書館での情報メディアの活用状況の参与観察調査と生徒へのインタビュー調査を行った。“guided inquiry”(導かれた探究)モデルでは、“explore”(探検する)と“gather”(収集する)の2つの情報収集のステージがあるが、研究課題を選択する際の予備的調査段階である“explore”(探検する)の段階で、十分に資料を読解できている生徒は少数に留まり、基本的な読解力の差がその後の学習に影響を与えていることが示唆された。

(3) 中学3年生の「学びの技」受講生徒全員の成績結果から、1学級という制約はあるものの、女子生徒と男子生徒間の授業中の記録活動や最終成績における格差の存在が確認された。

(4) 研究対象クラスの教員と司書教諭および科目担当教員へのインタビューでは、授業全般において意欲や能力を発揮できない一部の生徒についての指導上の課題が残ったとの発言があり、主体的な取り組みと個別のケアが求められる探究型学習の指導上の課題が示唆された。

(5) 前述の(4)までの研究を踏まえ、玉川学園をカリキュラム開発のためのモデル校として選定し、カリキュラムの構成要素の抽出のために以下の観点から分析を行った。

情報検索および情報記録のためのICTを用いた支援の可能性

探究的学習におけるICT活用の学習効果
探究モデルに基づいて設計した探究的な学習におけるスキルの定着度

探究的な学習の年間カリキュラムによる情報活用スキルの習得

探究的な学習における著作権に関する理解の向上についての分析

探究的な学習における反論スキルの指導

(6) 前述の(5)の分析調査により、各項目において一定の学習効果が存在することが判明したため、上記の諸要素を内包し、標準的な学校および学校図書館において展開可

能な短期カリキュラム案を開発した。

(7) 公立中学校を対象にカリキュラムの実践を計画したが、図書館資料の整備や副教材の準備等の課題から導入に至らず、試用実験には至らなかった。しかしながら本研究の趣旨について、国際学会での発表および海外招待講演において、広く知見を公開し、継続研究への示唆を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 17 件)

登本洋子、板垣翔人、伊藤史織、堀田龍也、メディアの特性を踏まえた情報収集を促進する生徒向け参考文献管理システムの開発と評価 教育システム情報学会、査読有、34-3、2017、印刷中

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、堀田龍也、探究的な学習における反論スキルの指導の展望と提案 日本教育工学会研究報告集、査読無、JSET17-1、2017、p.341-344

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、探究的な学習の年間カリキュラムによる情報活用スキルの習得とそれに及ぼす要因の検討、日本教育情報学会誌「教育情報研究」、査読有、32、2016、p.15-26

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、堀田龍也、探究モデルに基づいて設計した探究的な学習におけるスキルの定着についての検討 日本教育工学会研究報告集、査読無、JSET16-5、2016、p.117-122

登本洋子、板垣翔人、伊藤史織、堀田龍也、情報検索を支援する生徒向けシステムに必要な機能要件、査読無、日本教育工学会研究報告集、査読無、JSET16-3、2016、p.65-68

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、中学生に対するアカデミック・ライティング指導過程における発表活動が論文内容に及ぼす影響の検討、日本教育工学会研究報告集、査読無、16-1、2016、p.29-34

NOBORIMOTO, Y., ITO, S., GOTO, Y., KASAI, Y., HORITA, T., Implementation and Evaluation of Inquiry Learning Program "Waza for Learning" at the age 15, Proceedings of SITE 2016, 査読有、2016、p.1708-1715

河西由美子、学校図書館と学力 - CLASS 白書に見る米国学学校図書館のエビデンス研究の現状、図書館雑誌、査読無、109、2015、p.700-701

塩谷京子、堀田龍也、久保田賢一、初等教育における学校図書館の学習環境の改善 - 情報活用スキルを育成するための学習環境改善の要件 -、教育メディア研究査読有、22-1、2015、p.1-12

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、探究的な学習における著作権に関する理解の向上についての分析、日本教育工学会研究報告集、査読無、15-3、2015、p.73-78

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、ICT を活用した探究的な学習の開発と実践、日本教育工学会第 31 回全国大会講演論文集、査読無、31、2015、p.553-554

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、ICT を活用した探究的な学習の効果についての検討、日本教育情報学会第 31 回年会講演論文集、査読無、31、2015、p.260-261

河西由美子、デジタルコンテンツと学校図書館 学校図書館、査読無、773、2015、p.16-19

河西由美子、学校図書館の情報化の課題、学習情報研究、査読無、242、2015、p.32-33

堀田龍也、教育の情報化の流れと学校図書館、学習情報研究、査読無、242、2015、p.34-35

伊藤史織、学びに活かす学校図書館メディア、学習情報研究、査読無、242、2015、p.38-39

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、ICT を活用した探究的な学習における学習効果の分析、日本教育工学会研究報告集、査読無、JSET15-1、2015、p.67-72

[学会発表](計 11 件)

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、堀田龍也、探究的な学習における反論スキルの指導の展望と提案 日本教育工学会研究会、2017 年 3 月 4 日 信州大学(長野県長野市)

KASAI, Y., La sfida della biblioteca scolastica nell'era digitale: trasformare la vecchia stanza dei libri in un centro di apprendimento. (邦題: デジタル時代における学校図書館の課題) Università Degli Studi Roma Tre (ローマ第三大学 学校図書館研究会 招待講演) 2016 年 9 月 16 日 ローマ(イタリア)

NOBORIMOTO, Y., ITO, S., GOTO, Y., KASAI, Y., HORITA, T., Inquiry Based Learning for the Digital Age with School Libraries as

Learning Environments, Poster Presentation for Annual International Conference of International Association of School Librarianship, 2016年8月22日～同26日 明治大学(東京都千代田区)

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、堀田龍也、探究モデルに基づいて設計した探究的な学習におけるスキルの定着についての検討 日本教育工学会研究会、2016年12月17日 仁愛女子短期大学(福井県福井市)

登本洋子、板垣翔人、伊藤史織、堀田龍也、情報検索を支援する生徒向けシステムに必要な機能要件、日本教育工学会研究会、2016年7月2日 鳴門教育大学(徳島県鳴門市)

NOBORIMOTO, Y., ITO, S., GOTO, Y., KASAI, Y., HORITA, T., Implementation and Evaluation of Inquiry Learning Program “Waza for Learning” at the age 15, SITE 2016, 2016年3月21日～同25日 the Hyatt Regency Savannah, Georgia, USA

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、中学生に対するアカデミック・ライティング指導過程における発表活動が論文内容に及ぼす影響の検討、日本教育工学会研究会、2016年3月5日 香川大学(香川県高松市)

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、ICTを活用した探究的な学習の開発と実践、日本教育工学会第31回全国大会、2015年9月21日～同23日、電気通信大学(東京都調布市)

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、ICTを活用した探究的な学習の効果についての検討、日本教育情報学会第31回年会、2015年8月29日～同30日 茨城大学(茨城県水戸市)

登本洋子、後藤芳文、伊藤史織、河西由美子、堀田龍也、探究的な学習における著作権に関する理解の向上についての分析、日本教育工学会研究会、2015年7月4日 北星学園大学(北海道札幌市)

河西由美子、Kuhlthau らの “Guided Inquiry” の枠組みを援用した中学3年生の探究学習の分析、日本図書館情報学会、2014年11月29日 梅花女子大学(大阪府茨木市)

〔図書〕(計 1 件)

河西由美子(共著) 情報の評価とコレクション形成、勉誠出版、2015、173(125-135)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河西由美子(KASAI, Yumiko)
鶴見大学・文学部・教授
研究者番号: 10365869

(2) 研究分担者

堀田龍也(HORITA, Tatsuya)
東北大学・情報科学研究科・教授
研究者番号: 50247508

(3) 連携協力者

なし

(4) 研究協力者

登本洋子(NOBORIMOTO, Yoko)
伊藤史織(ITO, Shiori)